

【関西地区】ES の書き方 & 面接対策ホームルーム

1. 公務員試験における面接試験の概要

① 2021 年に実施された主な試験の面接試験 (当初予定)

国家公務員	国家一般職	2 次試験で個別面接 (人事院面接)、官庁訪問あり
	国税専門官	2 次試験で個別面接、最終合格後に採用面接あり
	財務専門官	2 次試験で個別面接、職場訪問 (官庁訪問に類似)
	裁判所事務官	2 次試験で個別面接
地上 (府県庁・政令市)	滋賀県	1 次試験で (筆記試験合格者に) 個別面接、2 次試験で個別面接と集団討論
	京都府	1 次試験で (筆記試験合格者に) 集団面接、2 次試験で個別面接とグループワーク
	京都市	1 次試験で (筆記試験合格者に) 個別面接、2 次試験と 3 次試験で個別面接
	兵庫県	1 次試験で (筆記試験合格者に) 個別面接、2 次試験で個別面接と集団討論
	神戸市	2 次試験で個別面接、3 次試験で個別面接とグループワーク
	大阪府	2 次試験で個別面接、3 次試験で個別面接とグループワーク
	大阪市	2 次試験で個別面接
	堺市	2 次試験と 3 次試験で個別面接
	奈良県	1 次試験で (筆記試験合格者に) 集団面接、2 次試験で個別面接とグループワーク
	和歌山県	2 次試験で個別面接

② 面接の種類と対策講義

個別面接は、どの試験でも実施される

2021 年に集団面接を実施した自治体はある (例: 京都府、奈良県)

* 集団面接の対策講義を TAC で本番直前の時期 (7 月) に実施予定

新型コロナウイルス感染症対策のため、集団討論・グループワークを中止した自治体が多い

* 今年実施される場合は、TAC で対策講義を本番直前の時期 (7~8 月) に実施予定

③ 個別面接でよく聞かれる質問

志望動機	論理的・道義的に「正しい理由」よりも、「熱意」を伝える
やりたい仕事	「熱意」、あるいは業務内容についての理解が問われる
興味ある政策・分野	業務内容についての理解、あるいは論理的に提案する能力を示す
自己 PR・長所	長所を伝えることができる経験談 (具体的な行動を伴うエピソード)
短所	短所を克服するために努めた経験談も必要
ストレス解消法	困難な状況を乗り越えた経験談が話せたほうがよい

2. 公務員試験における ES (エントリーシート)

① 名称と位置づけ

- ・ ES は、試験種や自治体によって名称は異なる (名称の例: 面接カード、エントリーシートなど)
- ・ 公務員試験のほとんどは、「書類審査」がない (大阪市、奈良市などは例外)
- ・ 面接時に事前に提出した ES をもとに質問されることが多い
- ・ 記入項目は、「個別面接でよく聞かれる質問」と類似している

② 2021 年に実施された主な試験の ES 提出の時期

国家公務員	国家一般職	2 次試験の面接時 (7 月) に持参、官庁訪問時にさらに記入することもある
	国税専門官	2 次試験の面接時 (7 月) に持参
	財務専門官	2 次試験の面接時 (7 月) に持参
	労働基準監督官	2 次試験の面接時 (7 月) に持参
	裁判所事務官	2 次試験の面接前 (6 月初旬) に送付
地上 (府県庁・政令市)	滋賀県	1 次の筆記試験時 (6 月) に提出、2 次の論文試験時にさらに記入
	京都府	1 次の筆記試験時 (6 月) に提出
	京都市	申込時 (5 月) に志望動機などを記入、2 次試験の面接時にさらに記入
	兵庫県	1 次の筆記試験時 (6 月) に提出
	神戸市	申込時に提出 (5 月)、3 次試験の面接時にさらに記入
	大阪府	当初の 1 次試験 (5 月) 時までに送付
	大阪市	1 次の筆記試験 (6 月) 前に送付、採点対象、2 次試験の面接前にさらに記入
	堺市	2 次試験の論文試験 (7 月) 時に提出
	奈良県	申込期限日の直後 (5 月末) までに送付
	和歌山県	1 次の筆記試験 (6 月) 時に提出

- ・ 国家公務員試験では、一次試験の合格発表後に持参・提出するのが一般的
- ・ 地方公務員試験では、申込 (出願) 時あるいは面接前に提出するのが一般的

3. 情報収集

① 自治体や官庁のサイト、説明会や採用イベント

- ・ **試験制度**についての最新情報を確認する
- ・ 自治体の課題や取組を確認して、「**興味を持った施策**」を挙げられるようにしておく
- ・ **職員の経験談**を聞くなかで感じたことが、**志望動機**を考えるきっかけになることが多い
- ・ 業務内容を知ることで、**職員に求められる資質**などを考える契機になる
- ・ *** 裁判所事務官**の面接では、**裁判傍聴**の経験や感想について質問されることがある

② 復元シート

- ・ 面接本番の形式や質問事項を知ることによって対策が立てやすくなる
- ・ ただし、年によって、また面接官によって質問事項は異なってくる

4. ES の作成と添削

① 自己 PR と「学生時代に力を入れたこと」（職歴がある人は、仕事中に長所を発揮した経験談）

- ・ **自己 PR**につながるので、**学生時代に力を入れたこと**などに関するエピソードなどを思い出す
- ・ 特筆すべき成果を挙げた経験がなくても大丈夫で、**人柄・長所が伝わる話**があればよい
- ・ 心がけていたことよりも、実際に取った**行動**によって、自身の**長所や価値観**を伝える

② 書く内容を思いつかないとき

- ・ **エピソード（複数）**を誰かに話して、自身の価値観や長所を探すという方法もある
- ・ 清書する前に、**文字数制限を考えずに書き出して**、そのメモを誰かに見せる
- ・ **周囲の人に**、自身について印象に残った**エピソード**などを**聞く**ことで、長所に気づくこともある

③ 担任カウンセリングを利用した「添削」

- ・ 先ず「結論から」、大きな字で見やすく、ただし書式や字数制限は厳守する
- ・ 誤字脱字や、「分かりにくい箇所」がないかチェックする
- ・ **面接本番で来そうな質問**を、講師に聞いておく対策を取りやすくなる

5. 模擬面接

- ・ 模擬面接に臨む前に、担任カウンセリングなどで話す内容を確認しておくという方法もある
- ・ 模擬面接に参加するときに **ES のコピー**を持っていくと、本番に似た形式で練習できる
- ・ 模擬面接では、話す内容だけでなく、**話す様子**もチェックする

以上